



みんな なかよく げんきに のびよう

三つの宝「**う**つくくまわりを **え**がおであいさつを **き**ちんとくつならべ」

令和4年度第13号
熊本市立植木小学校
令和4年6月28日
文責：校長清田浩文

幸福感を高めて、笑顔で過ごしましょう！

今朝の全校朝会で、「幸福感を高めよう」という内容の話をしました。
幸福感を高める要因には、以下のようなものがあります。

① 「やってみよう！」ということ

失敗を恐れて行動を起こさないままでいると、何も得られません。とにかくやってみることで、よりうまくやれる方法を思いついたり、突然できるようになったりします。やってみることで、自己実現を達成できたり、自己の成長を自覚したりすることができます。

② 「ありがとう！」ということ

家族や友達、周囲の人を喜ばせることや、愛情を感じることに感謝の思いをもつこと等、他者とのつながりが幸福度を高めます。また、自分を支えてくれたり、応援してくれたりしている人の存在を実感することができれば、安心感を得ることができます。

③ 「何とかなる！」ということ

難しいことやできそうにないことに直面したとき、「何とかなる」「(肥後弁で) どぎゃんかなる」と楽観的・前向きでいることが、自己受容(自分の良いところも悪いところも好き、前向きであろうということ)を高めます。そして、失敗や不安を引きずらないようになります。実際に、あきらめないで「何とかなる」「(肥後弁で) どぎゃんなんとでくる」という思いで試行錯誤していると、課題をクリアできることがあります。

④ 「ありのままに！」ということ

他人と自分を比較することなく、「自分らしくいられる人」、「自分は自分でいいんだと思える人」、「自分にだって、こんないいところがあると自覚している人」は、幸せを感じやすいものです。

以上の四つの要因を中心に、子どもたちに分かるような表現で伝えました。最後に意識して声に出したい「肯定感を高める言葉」を紹介して話を終えました。

承認の言葉・・・「いいねえ」 「さすがだね」 「すごいね」
関心を表す言葉・・・「なるほどねえ」 「知らなかったよ」
感謝の言葉・・・「ありがとう」 「嬉しい」 「助かった」
安心感を与える言葉・・・「大丈夫、大丈夫」

今回の話をきっかけに、子どもたちが幸福感を高めて、笑顔で学校生活を送ることができるようになってもらいたいと願っています。

学校教育目標

気づき・考え・行動する、自立と共生の力を備えた子どもの育成
～出会いと出番と対話のある「三方よし」の学校を目指して～